

### 環境を大切にすることを育てる野外学習の進め方

中学1年「植物の生活と種類」

小野島 孝

ONOJIMA Takashi

真正町立真正中学校

[キーワード] 生命概念

現在、様々なメディアから「環境保護」に関する情報が毎日のように発信されている。そして、それをうけた生徒たちは、「自然は大切にしていかなければならないものだ」という認識をもつようになってきている。そこで、メディアからの環境保護に対する知識だけでなく、足下の植物を見て、「たくましく生きているな」や「この草もわたしたちと同じ生きているんだな」と感じられる生徒が増えてほしいと考え、この主題で研究を行った。

#### 野外観察の仕方の工夫

野外観察を行うにあたり、漠然と観察するだけでは興味も続かない。ましてや、動きが他の生物よりもゆるやかな植物ではなおさらである。そこで、「自分の土地2500cm<sup>2</sup>」を設定し、年間を通じて観察を行った。年間を通して活動を行うことにより、「季節による植物の生き方の工夫」や「場所による植物の生き方の工夫」などに気づき、身近な植物のたくましさを感じることができると考えたからである。

さらに、もう一点、その土地との記念撮影を各季節で行った。これは、季節の植物の様子を比べるときに、「ノートには書けなかったこと」、「そのとき気付かなかったこと」にも気がつける利点。また交流時にも事実をもとに深めあえる利点があると考えたからである。

#### 植物の生き方を感じ取る、交流会のもち方について

夏と秋に観察を行ったノートの交流会では2種類の結果が出てきた。「植物は秋になると枯れたり小さくなったりする。」と「秋になったらたくさん植物が生えてくる。」である。

そこで、この相反する事象の提示から原因を追及する場をもつことにした。

すると、「・・・写真から・・・略・・・秋に木の葉が落ちたことにより下の土地に日光が当たるようになり、新しく植物が生えてきたのだと思います」・「以前植物が秋に葉を落とすのは、蒸散の量を少なくするためと習いました。だから葉を落とすことによって木の水分の吸収する量が減り、下の土地にも水分が多く与えられこの土地は秋になって植物が生えたのだと思います。」というように写真や既習事項をもとに考えを深めあい、植物の生きるためのたくましさを感じることが出来た。

### 成果

話し合い後の感想の中に「以前はあつ草かと思うだけだったけど、草も1年を通すと形を変え、新しいところ進入していったりと一生懸命になっているすごい物だと思いました。」と植物に対する見方が変わる生徒が増えてきた。